

RPPC メールマガジン 第 885 号

リサイクルポート推進協議会（令和 3 年 8 月 18 日）

■先週・今週の事務局からのお知らせ

NPO 法人山形県リサイクルポート情報センターのメルマガを掲載しました。

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1.堺泉北港の水深 12m 汐見沖岸壁、初弾工を発注見通しに

近畿地方整備局大阪港湾・空港整備事務所は、堺泉北港汐見沖地区に計画している水深 12m 国際物流ターミナル整備で、8 月の発注見通しにその初弾工事を挙げている。堺泉北港ではこれまで助松地区でコンテナ、RORO 貨物、中古自動車等を取扱っているが、近年は中古自動車輸出やユニットロード貨物が増加し、船舶の大型化も進んでいる。このため汐見沖地区に新たな岸壁を整備し、中古車輸出に対応したふ頭として整備する。

汐見沖地区では、大阪府が整備した水深 11m 岸壁延長 260m が供用しており、新バースは水深 11m 岸壁バースと連続した水深 12m 岸壁延長 300m。これにより船舶の大型化や 2 隻同時接岸が可能になる。

対象地区では大阪湾フェニックスの既設護岸があり、岸壁は同護岸を約 20m 沖出しした栈橋構造として予定している。

2.広島港宇品ふ頭の再編改良事業、東端部の陸上地盤改良工

中国地方整備局広島港湾・空港整備事務所は広島港宇品地区のふ頭再編事業で現在、東端部の延長約 55m を対象とする陸上地盤改良工事（砂圧入静的締固め工法）の手続きを進めている。工期は令和 4 年 3 月。その後は隣接部と同様に既設護岸前面への鋼矢板打設、背後の控鋼管杭打設を行い、タイロッドで結ぶ工事へと進める。同工事が終わると宇品ふ頭再編の第 1 期として計画している延長約 150m 区間を対象とする新栈橋杭の打設等、岸壁本体築造へと進めていく。

広島港宇品地区のふ頭再編事業は、利用中のふ頭であるため岸壁再編計画延長約 300m のうち約半分の 150m 区間を先行して改良～供用し、その後に残り区間の整備

を行う2段階方式で進める。再編整備する岸壁は、自動車専用船の大型化に対応して水深12mに増深すると共に、耐震強化岸壁として震災時には広島都市圏への緊急物資輸送機能も担う。

3.大阪港北港南水深16m国際CT、C12岸壁荷さばき地改良工

近畿地方整備局大阪港湾・空港整備事務所は今年度、大阪港北港南地区C12岸壁荷さばき地の地盤改良工事の発注を予定している。8月の発注見通しに挙げており第4四半期に入札する案件。工事規模は15億円以上30億円未満工事。

大阪港北港南地区の国際コンテナ戦略港湾の整備では、C-12岸壁も含め水深15m～16mの耐震岸壁4バース（総延長1350m）が供用している。現状では背後荷さばき地等の液状化対策が残っている区画がある。

今回発注見通しに挙げている地盤改良は、C12岸壁延伸部の背後用地を中心とする約4ha。

4.日鉄エンジ、井本商運ら水素利活用技術。石狩湾新港洋上風力余剰電力活用

グリーンパワーインベストメント（GPI）ほか5社は、石狩市、札幌市、（一社）石狩環境エネルギー産業推進会議の協力のもと、（国研）新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が公募した2021年度「水素社会構築技術開発事業／地域水素利活用技術開発／水素製造・利活用ポテンシャル調査」に応募し、委託事業の採択を受けた。

同調査ではGPIが北海道の石狩湾新港で建設中の洋上風力発電所から発生する余剰電力を活用した水素製造を見据え、「大規模洋上風力発電所」「大規模蓄電池」「水電解装置」の一体的な運用による効率的な水素製造（地産）、石狩市・札幌市等の地元地域での水素利活用（地消）、並びに北海道内・道外との水素輸送について、技術・経済・制度等の課題を抽出し、余剰電力からの水素製造、地産地消の実装を推進する。事業実施期間は21年8月～23年2月。

同調査研究参加企業等は、グリーンパワーインベストメント、北海道電力、日鉄エンジニアリング、井本商運、エア・ウォーター、京セラコミュニケーションシステムの6社。各社の役割分担は次の通り。

▽グリーンパワーインベストメント＝調査全体の取りまとめ、水素製造に用いる余剰電力量の推計、石狩市・札幌市および周辺地域におけるモビリティ・建物等への水素利活用ポテンシャル調査、水素利活用トータルシステムの実現性調査、▽北海道電力

=火力発電所での水素利活用ポテンシャル調査、▽日鉄エンジニアリング=水素製造設備の検討、水素製造量シミュレーション、▽井本商運=北海道外との水素輸送方法の検討（内航船輸送）、▽エア・ウォーター=北海道域内における水素輸送方法の検討、▽京セラコミュニケーションシステム=データセンターにおける水素利活用の検討。

※港湾空港タイムス 8月 09 日/16 日号から編集

※新たに導入した PC とメーカーの環境では、添付ファイルが「***.dat」となったり、不要な添付ファイルが付く場合があります。受信ファイルに不具合がある場合は、気兼ねなくその旨ご指摘ください

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：山田 安彦 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

川田 延也 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////